

もも栽培情報第1号

1 生育状況等

これまでの気温が平年よりやや高く推移したことから、生育はやや早まっています（1月～2月4半旬の平均気温4.3℃。平年比+2.4℃；AMeDAS 砺波データ）。

県果樹研究センターの発表（3月1日）では、「あかつき」の開花始めは4月7～8日で、前年より8日程度遅く、平年より2日程度早いと予想されています。今後の気温が平年より高い場合は、さらに生育が早まることが考えられますので、せん定や防除等作業は遅れないようにしましょう。

2 病害虫防除

<薬剤防除>

時期	散布薬剤名	対象病害虫	希釈 倍数	散布量 (10a当)	100%当 必要量	散布実施日
3月上旬頃 (休眠期)	ホーマイコート	縮葉病	100倍	300% <small>（10a当）</small>	1kg	
	または 石灰硫黄合剤	縮葉病、胴枯病、黒星 病、カイガラムシ類	7倍		14% <small>（10a当）</small>	

※カイガラムシ類の発生が目立つ場合は、機械油乳剤95（20倍）を発芽前に散布してください。ただし、石灰硫黄合剤との混用は避け、散布間隔は2週間以上開けてください。また、樹勢が弱っている場合は薬害を生じるおそれがあるので散布しないでください。

※薬剤は、散布ムラがないようにていねいに、十分量を散布してください。

※園外への飛散や他作物への飛散が無いように十分注意して散布してください。

※農薬の使用前には必ずラベルを確認してください。

<耕種的防除>

(1) せん孔細菌病

発生源となる春型枝病斑（芽・枝枯れ含む）（写真1・2）は、見つけ次第切除し、園外に持ち出し適正に処分してください。



写真1 せん孔細菌病春型枝病斑



写真2 枯れ枝（芽が動いていない）

(2) カイガラムシ類 (写真3・4)

寄生が多い場合は、ワイヤーブラシ等で削り取り、越冬密度を減らしてください。



写真3 ウメシロカイガラムシ



写真4 フジコナカイガラムシ

3 せん定について (写真5)

せん定は、3月の防除前に終わらせるよう努めてください。
主枝や亜主枝の生育を妨げるような、強大化した側枝を優先的にせん除してください。

結果枝は、中・長果枝を中心に配置し、また、摘蕾・摘果作業の省力化のため、5 cm以下の短果枝数は、せん定後に1/3程度の数になるようせん除してください。

切り口には保護殺菌剤（トップジンMペースト等）を塗布して保護してください。



写真5 せん定後の枝の状態

4 摘蕾について

実施時期：花芽がやや膨らみ、先端のピンク色が見え始めた頃（写真6）

摘蕾程度：70～80%程度の蕾を取り除く（残す花芽数は20～30%程度）（表）

※主枝・亜主枝先端部、伸ばしたい枝は全部摘蕾してください。

※若木の過度な摘蕾は、生理落果の原因となるので、やや多めに残してください。

※苗木～幼木期の結実させない樹は、全部摘蕾して樹体育成に努めてください。

※花粉の無い「川中島白桃」や花芽の少ない「黄金桃」等は、結実量を確保するため、除去する蕾の量を30～50%程度にとどめてください。



写真6 摘蕾適期の花芽の状態

表 結果枝別の残す蕾の数と位置(70%程度摘蕾の場合)

短果枝(10cm未満)	中果枝(10～30cm)	長果枝(30cm以上)
先端付近に1～2個	中央部に2～3個	中央部に4～8個

お問い合わせ：富山県高岡農林振興センター担い手支援課園芸振興班

担当 大城・宮本 TEL 26-8476